

第136年会

講演ハイライト

YOKOHAMA 2016

3月26日(土)~3月29日(火)

パシフィコ横浜

(展示会場ホール、会議センター、アネックスホール)



公益社団法人 日本薬学会

目 次

◆ ご 挨 拶	1
◆ 年会日程一覧	2
◆ 会場案内	8
◆ 系別一般学術発表演題数およびハイライト掲載数一覧 …	11
◆ シンポジウム 講演番号について	11
◆ 一般学術発表 発表番号について	11
◆ シンポジウム キャッチフレーズ一覧	
一般シンポジウム	12
大学院生シンポジウム	19
◆ 一般学術発表 キャッチフレーズ一覧	
化学系薬学	20
物理系薬学	21
生物系薬学	21
環境・衛生系薬学	22
医療系薬学	22
その他	23
◆ 一般学術発表 ハイライト要旨	24



ご 挨 拶

日本薬学会第136年会は、「次世代の薬学への羅針盤～新しい薬学への出帆～」をテーマに掲げ、2016年3月26日(土)から29日(火)まで、パシフィコ横浜(横浜市)で開催されます。

教育面では、改訂モデル・コアカリキュラムの実施や薬学教育学会の設立など、6年制教育の再出発の時期となっています。一方、前年会から国際創薬シンポジウムが始まり、今年3月には6年制教育を受けた博士課程(修業年限4年)修了生が初めて輩出されるなど、創薬関連の研究者育成においても新たな時代を迎えます。

特別講演として、海外5名、国内7名に加えて、大村 智 北里大学特別栄誉教授によるノーベル賞受賞記念特別講演があります。国際創薬シンポジウムでは、話題のC型肝炎治療薬ソホスブビルを開発したM. J. Sofia博士(Tekmira Pharm. Co.)の講演もあります。シンポジウムは、一般・大学院生シンポジウム72件、国際交流シンポジウムとしてドイツ薬学会代表者講演とFIPフォーラム、さらに東京オリンピック・パラリンピック2020への準備に向けた薬局薬剤師と外国人患者とのコミュニケーションに関するシンポジウムも開催されます。一般口頭発表は約1,040題、ポスター発表は約2,510題となっており、薬学を取り巻く幅広い分野からの参加が期待されます。

日本薬学会第136年会 組織委員長 伊藤 智夫

広報委員会は日本薬学会の様々な活動やメッセージを会員だけでなく、広く社会にお知らせすることに努めております。この度、本委員会では組織委員会と協力して、発表予定の研究成果とシンポジウムの概要をハイライト集としてまとめました。

一般学術発表につきましては、第135年会より全演題の中からの選択性を採用しております。会員の研究成果を報道関係者や一般の方々に知って頂きたいとの趣旨から、組織委員会が選択した発表について、発表者の作成したキャッチコピーとハイライト用原稿を広報委員が査読し、専門外の方にも理解しやすい内容で掲載しております。シンポジウムについてはキャッチコピーのみをお願いし、広報委員が査読して掲載しております。

日本薬学会では、「薬」を総合的に科学する唯一の学術団体として、優れた医薬品の創薬・育薬および我が国の医療に貢献しています。年会では、会員の優れた学術研究の成果だけでなく、薬学教育への取り組みなどについても一般の方々にも広く知らせていきたいと考えています。

また今年、中高生に薬学を目指してもらうことを目的とした薬学紹介DVD(ナガイ博士の薬学への招待)を制作いたしました。薬学会ならびに会員に対する報道関係の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本薬学会 広報委員長 高子 徹